# 10万円の使い道

あっという間に決まった10万円。いきなり一人10万円がいただけるとは。妻と2人分、20万円が本当に振り込まれていた。

さて、どう使う？

妻は早速、大判の聖書を購入した。聖書というと世界一のベストセラー。ずっと変わらないと思われているが、「変わらない言葉を変わりゆく世界に。大きな文字で、さらに読みやすく」との本の帯でわかるように、高齢化社会に合わせて？大きな文字。近年はカトリックとプロテスタント共同作業の翻訳で共同訳の聖書も出版されている。

私も有効な使い道をと悩んでいたとき、日刊新周南で、ほうえい堂「オリジナルまんじゅう」の記事を見つけた。コロナ禍で今できることは何かと考える。会えない人に心を伝える方法として、「巡礼の道まんじゅう」を作ってみたいとつぶやいた。長女があっという間に申し込み、パソコンに見本のまんじゅうの写真が送られてきた。コロナ禍の産物として対面でなくても、インターネットでのやりとりでまんじゅうは完成した。

巡礼の道まんじゅうのために改めて巡礼記事をめくってみる。

２００６年４月13日、第１回がスタート。長かったような短かったような。当時、小学生だった孫は、大学を卒業し、社会人経験後、大学院で学んでいる。途方もない年月。私はこの14年間、記事を書く以外に何をして来ただろうかと考える。

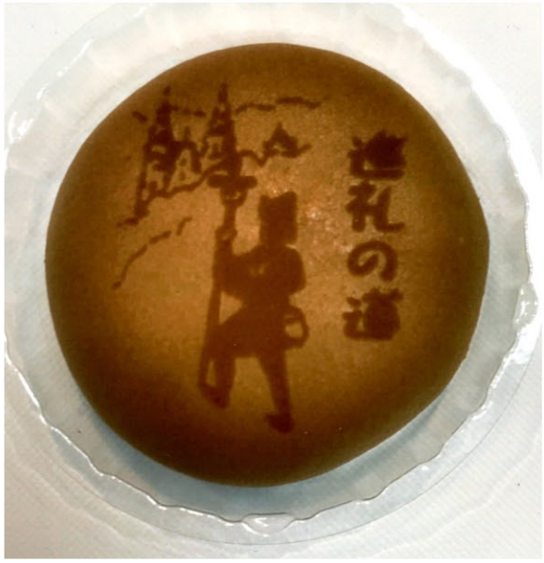
今年の夏は特に暑く、暑さに年齢が負ける。どうやってこの暑さを乗り越えたら、すがすがしい秋を迎えられるか、日々悶々としている。京都や奈良に行かなくても、富士山に登らなくても、禅寺を訪ねなくても…。

友人が遊びに来た。水着を着て、海で泳いできたと大はしゃぎ。いったい何歳になったのか。耳を疑う。曰（いわ）く、海は遠浅で、海の家もなく、人もいない。遠慮なく海に入った。解放感と満足感とがあり、うれしかったと喜んでいた。

他人の価値感、世間の常識に振り回されず、余計な心配事を抱え込まず、限りなくシンプルに自由に生活してみる。世間のしがらみから解放されて、久しぶりに楽しかった。

シンプルに生きると、ずっと楽になる。心は涼しく、悩みは、すーっと消えたとも言っていた。「藤屋さん、海水パンツをはいて、海に行こう。誰も見ていないし、楽しいよ。お金も使わずにすむよ」と、誘われる。

「えっ、10万円使わないの」妻が叫ぶ。「だったら私にちょうだい」。



巡礼の道オリジナルまんじゅう

ほうえい堂

光郵便局の風景印は海岸のデザイン。